

「諫早湾干拓地区」で揚水ポンプ等の更新を行っています！ 農村整備課

平成19年度に完成した諫早湾干拓事業では約7kmの潮受堤防によって大雨時の冠水被害が著しく解消され、また干拓により新しく生まれた約700haの農地において、大規模な環境保全型農業が営まれ豊富な農作物が収穫されています。

しかしながら、農業用水供給のための揚水機場は完成から15年以上が経過し、老朽化により多くの設備が改修時期を迎えています。このため、県では施設の長寿命化を図るため令和3年度から設備更新等の再整備を行っています。

【諫早湾干拓地区概要】

事業名：農業水路等長寿命化

防災減災事業（長寿命化対策）

事業工期：1期（令和3年度～令和5年度）

2期（令和8年度～令和10年度）予定

総事業費：197百万円（1期）

事業内容：揚水機場2ヶ所

（ポンプ設備、弁類及び補機類、除塵設備）



更新中の中央揚水機場のポンプ設備

「ふるさと探検～小野用水を学ぼう～」を実施しました！ 土地改良課

本イベントは、諫早平野周辺地域で営まれている農業や農業水利施設の役割・歴史を学ぶ機会を提供し農業農村整備事業のPRを行うため、小野小学校4年生の総合学習の一環として平成23年から毎年実施しており、本年度も7月に実施しました。

小学生たちは、小野用水の起点となる本明川の山下漕から眼鏡橋を通り、市街地を流れる小野用水に沿って歩きながら、小野用水の役割や諫早大水害の歴史を学びました。

途中の半造川では、川底を通して対岸の農地へ水を運ぶ「^{そこいび}底井樋」という江戸時代から受け継がれてきた技術の説明を受け、この仕組みを^{よしはら}葭原排水機場でサイホン模型による実験を通じ



小野小学校4年生と記念写真を撮りました

て学びました。最後に排水ポンプによる強制排水を見学し、大雨時に水害を起こさないための排水の大切さも学びました。

参加した小学生たちからはサイホン実験が特に印象に残り、小野用水を楽しく学ぶことができたとの声が多く聞かれました。